

⑨ 水田の稲を食害するスクミリングガイ

スクミリングガイは、1980年代前半に南米から食用のために持ち込まれました。その後野生化し、名古屋市を含む国内の多くの地域に定着しています。水路や水田の際に赤色の卵を産み付けている姿がよく見られます。この貝は、稲やレンコンを捕食するため農作物に大きな被害が出ています。



スクミリングガイの卵



スクミリングガイ

⑩ タナゴの産卵母貝となるイシガイ類

イシガイ類は、河川のワンド（入り江状になった場所）や水路に生息する二枚貝類です。しかし、河川の護岸工事などにより、名古屋市内でも生息地点数が減少しています。イシガイ類はコイ科魚類であるタナゴの産卵母貝になるため、タナゴを保全する上でも重要な役割を担っています。



水管

タナゴの産卵母貝となるドブガイ属の一種



改修工事により死滅した二枚貝

⑪ DNA分析で発見された国内初記録種のヤハズヌマガイ

ドブガイと呼ばれる大型二枚貝は、形の違いによってヌマガイとタガイの2種に別れると考えられてきました。しかし、DNA分析を行ったところ、これらはもっと多くの種を含むことが示されました。愛知県北設楽郡の矢筈池で発見された個体は、ロシアなどに分布するヤハズヌマガイに同定されました。これが国内初記録となり、その後名古屋市西区のため池などからも発見されています。



ヤハズヌマガイが発見された
西区庄内緑地公園のガマ池



ヤハズヌマガイ